



ほけんだより

2015 10月1日

りすのき保育園 NO.8

歩いていると、金木犀の花の香りがしてきます。まるで、季節が変わったことを知らせているようです。一歩外に出ると、爽やかな風が、とても心地よく、外に誘われてしまいます。

こんな日は、子ども達は、大喜びでお散歩に出かけていきます。帰りは、秋の宝物を沢山持って帰ってきます。この中から、芸術となる更なる宝物が作られることが楽しみですね。

心もからだも、大きく育ってほしいと思います。

今月の予定

全園児歯科検診 1日(木) 全クラス AM9:30 ~ 木村先生に診察していただきます。

*歯磨きを忘れずにしてきてください。

乳児健康診断 16日(金) 乳児の部屋(くるみ~まつぼっくり)

PM 2:00 ~ 診察していただきます

保健指導 19日(月) 「目と耳の話」(どんぐりのへや)

しいのみ・かしのみは視力・聴力検査をします。

身体測定 20日(火) 全クラス



伝染性紅斑(りんご病)が園内で、流行しています。



8月に発症し、現在までに21名の感染者が出てしまい、ご心配をおかけしています。

りんご病の症状は、頬がりんごのように真っ赤になって、腕や足は網目状の湿疹が出ます。

子どもたちのほとんどは湿疹の部分を痒がります。

熱は微熱程度ですが、湿疹の部分は熱をもって熱くなります。

大人も何人かかかっていますが、関節痛や頭痛、高熱、等かなり重症な方もいらっしゃいました。

感染経路は、飛沫なので、咳・鼻水に注意しましょう。手洗い・うがい・マスクで予防できます。

症状が出た時には、感染力が弱まるという事もあって、熱が無い限り、登園は可能となっています。

しかし、妊娠された方が、感染すると、赤ちゃんに影響を及ぼす事があります。症状が出てきたときは医師の診察を受け、りんご病と診断されたら、園に連絡をして頂きたいと思ひます。

ご協力をお願いいたします。

子どもの目の 健やかな成長 のために

目覚ましく視力の発達する0~6歳くらいまでの間は、子どもの目のために特に大切な時期。

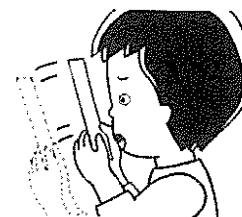
でも、子どもは自分では目の異常がわかりません。周りの大人がサインに気づいて、なるべく早く専門医に繋げることが重要です。小児に強い先生を見つけておきましょう。

よく見えていないサインかも？

こんなときは
早めに病院へ！

1 ものを見るとき

●極端に顔を近づける



●顔を傾けて見る

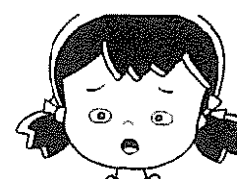


●片方または
両方の目を細める

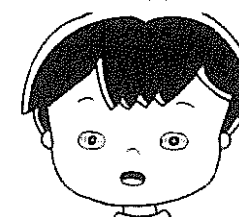


2 見た目

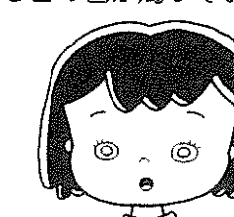
●寄り目になっている
目の方向がずれている



●眼球が振動している

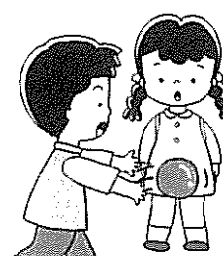


●目の色が濁っている



3 動作など

●反応が鈍い



●集中力がなく、
飽きっぽい



○ 子どもの視力検査のはなし ○

3歳になると視力検査ができるようになってきて、ほぼ正確に視力がわかるようになります。

正常なら、3歳を過ぎるとほぼ1.0の視力がありますが、検査に慣れていないことも多いので、0.7くらいでも正常と判断します。

気をつけたい

子どもの弱視



視力が育つ途中で、斜視や屈折異常など何らかの異常によって発達が妨げられると、見たものを脳に伝える回路の成長が未発達のまま止まってしまいます。これが「弱視」です。

弱視は早期発見、早期治療が鍵。大きくなってからでは治療が間に合わないこともあります。